

Alhaitham × Kaveh



36.8°Cの境界

36.8°Cの境界

R-18

境界

セツクスしないといけない環境

敵っ敵だ

なんなんだ  
この環境は…

元敵方も  
消えるな

エニフ



悪趣味にも  
種があるぞ

ノックも  
置いてきてしまったし…

知らない言語だが  
何故か理解出来るように  
情報が流れるんぞ…

悪趣味い

ちんぽ

何を触ってるんだ  
君は！

ローション





相手の意思に  
なれる事！？



是るからに  
製品のベツドに

この物の素材！  
なんだ？  
見たことかないぞ



この物の  
素材も！

ん？



！飲むのか  
それを

君だって  
分かってるだろ

この種類  
種々の  
手におえる  
代物じゃないぞ

ここは國の通り  
寝ろほかない

そしてそれを  
潤滑に行うには！



飲むしか  
ないだろう

王直徳は  
君とセツクエすをなんで  
導いたこと  
なかつたし……  
飲ませるものは  
飲まうべきだ





「一体どんな！」

「理髪...  
理髪してなかっただけで  
髪はなるな」

「これだ、  
お互い理髪の店...」

「髪が濡いな」



「これって  
君には  
理髪の色に見えてるか？」

「あれ  
これ理髪がなかったって  
ことか？」



「ああ  
君は？」

「！」





ボトムが初めてだから、  
アゲて入るとは言ったけど



じわじわ  
押れられるの  
おかしく  
なりそうに

もう一気には  
進めばすなの



もう全部進んで  
開けて...!

丁寧な  
まじないも



「慣れたとはいえ  
まだ動くまでは  
動かしなさい」

と平

君は俺の意思の人だ  
傷つけるわけには  
いかないよ



俺らの過去が  
かけ違っていたら



俺は  
三の巻を  
読んでた

平









「今アルハイゼンが  
帰って来たら...」

「...  
死なないうで...」



「あいつは僕の事なんか  
知ってるのか」

「...  
知ってるよ」



「...  
今アルハイゼンが  
帰って来たら...」

「...  
死なないうで...」

「...  
知ってるよ」

「あいつは僕の事なんか  
知ってるのか」

「...  
知ってるよ」





あの顔で誰う人をなぞらないで  
ほしいと思ってしまった

あの顔で誰かになりたいと  
思ってしまった



は...

あの顔で誰かになりたいと  
思ってしまった



おれはもう、  
思ってしまった。

前まると同様に  
終わるなんて

なんとも懐かし

帰って来てから  
数日が経った

あんな事をしたにも関わらず  
様子は全く変わらず  
通っている











ふふふ

豆は買って明日までに補充しておくけど

僕は今日は遅くなる  
夕飯は自分で調達してくれ

今日は？

今日もだろ  
言葉は正しく使うべきだ



この様子じゃ  
君が必死に張り詰めてる  
体調とやらも  
アルコールで潰けだすのは  
時間の問題だろうな

それすら構わない  
酒で潰かしたいものが  
あるのかもしれないが

君の精神まで潰かさないことを  
祈るよ



君なら  
酒く本を閉じたと思っただら  
ちくちくと  
なんだってんだ

僕の金なんかからな  
どう使おうと  
僕の勝手だ

どう？  
それで夜中に騒音と共に  
帰ってくるよ

よく人の金の使い方には口出し  
出来たものだな

はあけ  
僕の酒と君の態度は  
置物を同等にするなよな









すき…  
だのpane



ひんがしや  
こたつに準備をすた

一人で加味を  
嗜ってるやつ  
なんかにか？



あまて

ていついかなんか  
お茶の間に「だのpane」

なにしよう  
あいつのパン



そんなのが理想の人  
とやらなんて  
本当に  
どうにかしている

「そなたをこれって  
本当に好きって  
感情あるか？」

好きだの理想だのって  
僕らのような  
経験した関係の上に  
成り立つ感情じゃないだろ

実際あいつには  
他に理想の誰かがいる



「あいつとは  
分かって合えないし」

「分かってたくなないと  
知り過ぎてたのは痛ど

「彼に話だけしては  
こころは通じ  
ずさうしては話されないとわかって



あいつの理想

理想の人に比べては  
強情でも争って  
やさんださうか

……だなんてな



「無情あいつの口を  
見る度  
思われたときの熱を  
探ってしまう」



「だからいつまで  
強情にいらして  
取んたくれてるっての」











けど、運うたろうか  
運は……

けど

ごめん

あ



運うら

その「運い」というのは  
運が勝手に作り上げた  
「運」への感謝の  
言葉にすぎない

俺自身は  
いつだって  
俺の運のままに  
行動している



……言葉遣ひは  
よせよ

それに  
運のままだってさ

は

あんな目で見て  
自分と逢んだ  
彼女だな

まるで  
自分は運うかのような  
面い事だな



君はどうなんだ



見ていたという事実は  
否定しないし

彼の盛衰を定例する事も  
無理のないことだが



は……

違う

現場から離れた後  
誰かの面影を探すように  
俺を見ていただろう



彼は何かあると  
酒に逃げる癖がある

仕事に詰まっている  
俺等は  
見受けられなかったから

俺に誰かを重ねて  
見てしまう  
自分から逃避したかった  
という所か

違う



なんだ  
ま物の美がどうだとか  
書けやう願には

代用品で満足するんだな  
大層騎士様は



……

俺が見てたのは



代用品だってけ

……

種を差別するな!

……

……

種が見ていたのは

あの日に初めて  
見た人だ。……  
……

見たかったのは

……

……

……

「悪かった  
おれでくれ」







俺は君の側に  
居られたら良かったんだ























……

……

……

……

……

……

……

……

……





君も  
こんなに  
熱くなるんだな！

いつだって  
冷静な君が…



当たり前だ



カレウ  
君と変わらない

熱さだよ











おん...  
おん...  
おん...

ア

おん...  
おん...

おん...



アホのイゼン!

ア



ア



おん...

おん...



正真正正  
これが正真正正かなんて  
おん...

おん...  
おん...  
おん...



明日も  
君に  
変わらない顔がある

それだけで  
なんだか真いって  
思えてしまう